

## W-2 ワークショップ：発達障害の言語の問題をカートグラフィーで捉える

遠藤喜雄（神田外語大学）・幕内充（国立障害者リハビリテーションセンター）

1. 要旨：本ワークショップでは、近年大きな社会問題になっている「発達障害」を取り巻く言語の諸問題を、ヨーロッパで1990年代に開始された統語構造を地図(cartography)のように詳細に描く「カートグラフィー」(=the cartography of syntactic structuresの略)という枠組みを用いて論じる。文には「誰が誰に何をした」という命題を表す階層があり、その上にその命題を他者にどう伝えるかという情動（態度・価値判断など）を表明する文末助詞（か、ね、よ、さ等）の階層があるが、そこに対人コミュニケーションの諸相が集中的に出現すると予想される。実際、対人コミュニケーションを不得意とする自閉症者が文末助詞を使用しないという観察は、その例であると考えられる。本ワークショップでは、こういった階層が統語演算によって生成されるという仮説を共有する言語学と認知神経科学の研究者が共同して自閉症の言語障害の基礎的メカニズムを考察する。

2. ワークショップの構成：本ワークショップでは、発達障害の諸問題を以下の構成で扱う。

- I. 認知神経科学の研究者が発達障害の概要と問題点を紹介し、そこで生じる問題を解決するにはカートグラフィーの手法が有効であることを示す。（幕内）
- II. 次に、本ワークショップの基盤となるカートグラフィーの誕生に深く関わった研究者がカートグラフィーの基本的な考え方やその概要を発達障害にも触れながら論じる。（Rizzi）
- III. さらに、これらの点を踏まえて、統語論研究者と音韻論研究者が、発達障害のどのような点について、言語学の研究者が貢献することが期待できるかを日本語の文末助詞を中心に統語構造と音韻構造の点から論じる。（遠藤、那須川）

具体的には、日本のASD関係者に知られている興味深い点に自閉症児に特徴的な話し方として文末助詞、特に「ね」を使わない（綿巻 1997）という点を取り上げる。

### 3. 各発表

#### 発表（1）自閉症の言語障（幕内）

発達障害の概要とその問題を論じる。2013年5月に米国精神医学会のDSM (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders) が改訂され、DSM-5が出版された。このとき、「広汎性発達障害」の名称の変更に伴い、その下位分類が廃止され、「自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorders : ASD)」として包括された。この背景を踏まえて、発達障害の言語の問題を捉える。

発表（2）〈The cartography of syntactic structures : Results and implications for cognitive studies〉 (Rizzi)

This presentation provides the general ideas of the cartography of syntactic structures. Special attention is paid to the discussion of the fundamental properties of the cartographic project, where implications for cognitive studies including autism are mentioned.

発表（3）発達障害のカートグラフィー（遠藤）

従来のASD研究は、欧米の言語に偏る傾向があったが、本発表では、日本語の文末助詞などがASD研究に貢献する可能性を探る。これを通して、言語の構造を階層構造からなる様々なタイプの階層の集合体と捉え、その全体像を詳細に描き出す「カートグラフィー」の枠組みがASD研究には有効であることを見る。

発表（4）発達障害の音韻的特性（那須川）

自閉症児が、「ね」のような終助詞をうまく使用できない理由を、音韻的見地から探る。特に次の3点を考察する。

- (A) 「ね」の音韻的特徴
- (B) 「ね」の音韻構造
- (C) 「ね」の有する音調特性と自閉症

<参考>

日本学術振興会科学研究費 基盤研究(A) 令和元年～5年

「文末助詞の階層における情動計算不全としての自閉症の言語障害」(研究代表者:幕内充)

目標：自閉症スペクトラム症障害の言語障害を言語学理論<カートグラフィー>で捕捉。リハビリテーション手法を創出するための基盤となるエヴィデンスを提供する。

仮説：情動的情報が終助詞の階層で統語演算によって生成される

研究組織

理論班：遠藤喜雄

障害班：幕内充（代表）、中村仁洋、中村仁洋、和田真、伊藤和之

言語処理班：小泉政利、木山幸子、鄭 嬌婷、那須川訓也

MRI 班：小川誠二、成 烈完

研究協力者：水落智美、頼瑤鋳、馬瓊、熊可欣